

問 生涯学習課 ☎42-3511

文化祭に展示する作品を募集します。出品には事前に申し込みが必要です。  
出品は1人1部門につき1点、自作、公募展未発表のものに限ります。



## 部門と企画

|                                 |      |                                                                       |
|---------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 日本画                             |      | 6号以上F 100号以下で額装又は軸装、その他これに準ずるもの                                       |
| 洋画（油絵・水彩・ガラス絵・版画・デザインなど）        |      | F 100号以下で額装又は壁展示可能な装具を施したもの                                           |
| 彫塑・工芸<br>（陶芸・彫刻・和紙工芸・アップリケなど）   |      | 重量50kg以下、平面100号以下、高さ230cm以内、横150cm以内、奥行100cm以内でつりひも、金具など展示可能な装具を施したもの |
| 書<br>（漢字・かな・近代詩文・少字数・<br>てん刻など） | 漢字作品 | 小画仙紙半折 2 分の 1 以上全紙以下、横幅180cm以下（仮表装以上）のもの（横60cm×縦240cmは可（枠張のみ／額装不可））   |
|                                 | かな作品 | 半懐紙以上（仮表装以上／折帖及び卷子不可）のもの                                              |
|                                 | てん刻  | 縦39cm×横30cm×厚さ3cm以下で額装又は枠張のもの                                         |
| 写真（カラー・白黒）                      |      | 全紙サイズの単写真でパネル張り又は額入り（ガラス額は不可）のもの                                      |

**対** 高校生以上 **搬入日** 10月20日(日) 9時～17時 **搬入場所** 文化会館内の受付後に指示する場所

**搬出日** 11月3日(日) 16時～18時（書は16時30分～） **表彰式** 11月3日(日) 9時30分～

**申** 9月13日(金)～27日(金)（17日(火)、24日(火)を除く）の9時～17時に規定の出品

申込書を郵送（〒447-0872 源氏神明町4）又は直接文化会館内生涯学習課

## 注意事項

- ・天災や不慮の事故については、一切責任を負いません。
- ・申し込み後の作品変更、題名変更はできません。
- ・搬出日に搬出されない場合は、作品の保管に責任を負いません。  
また搬出日以後10日経過した作品は主催者で処分します。
- ・審査員により、出品規定に適合しないと判定した場合は展示しません。



△令和5年度大賞  
水谷正男 作「妖艶な」



願随寺の庫裡 築約200年  
「義校」はもと名古屋県が始めた学校で、内容は郷学校と同様であったようです。額田県が

愛知県が出した義校規則により「義校」を開校しました。

大浜北郷学校は西光寺（浅間町）庫裡、棚尾郷学校は妙福寺（志貴町）の境内にあり、平七・東浦郷学校は東正寺（平七町）本堂を借りました。伏見屋新田郷学校は場所を伏見屋新田の説教所と記し、現在の常瑞寺（伏見町）にあたるとの情報もあります。貞照院（霞浦町）の僧侶らがこの学校の教師を務めました。

No.110 碧南の寺を巡る（3）  
寺の中に学校ができた その二  
前号では大浜郷学校を紹介しました。額田県（明治四年十一月～五年十一月）が設立を奨励した郷学校を、碧南市域内では、学制頒布があった明治五年（一八七二）のうちに多くの村で開校しました。郷学校として、大浜北、棚尾、平七・東浦、伏見屋新田、西端が分かっています。

愛知県に合併すると「義校」への一本化が図られました。

四月の開校時、鷺塚村内の民家二軒を義校とし、神有の応春寺・照光寺（いずれも天神町）の長屋・庫裡と二本木の民家の控え家、荒子の等覚寺（荒子町）庫裡の四ヶ所を支校としました。県は、学校の開設に当たり当面は寺院や民家を借用して教室に充ててよいとしていたのです。  
ところが、愛知県はその年に学区を整備しました。鷺塚村は六ヶ所の義校及び支校を九月に廃止統合して「第五十一番小学鷺塚学校」として願随寺（鷺塚町）の庫裡を借用して改めて開校しました。教員は川端蓮成寺の前住職と村の有力者で近藤坦平の祖父に学んだ榊原氏でした。しかし、願随寺は鷺塚村の全体から見ると東に偏った位置にあり、荒子辺りからは遠すぎました。そこで、十一月からは寺を出て再び二本木の民家を借りました。  
翌年、県は校舎新築を奨励する布達を出します。太政官から地所下げ渡しし、達しがあり、鷺塚村は、明治十年（一八七七）九月、川岸浜一番地（旭町）に東部の米倉を移築して平屋建て二棟を校舎としました。村民の寄付と集金で作られました。

## 碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室 ☎41-4566